

「ぼくたちの地球を守ろう」

第10回小・中学生作文コンクール
第4回小・中学生ポスターコンクール

授賞式

第7回「アジアこども会議」

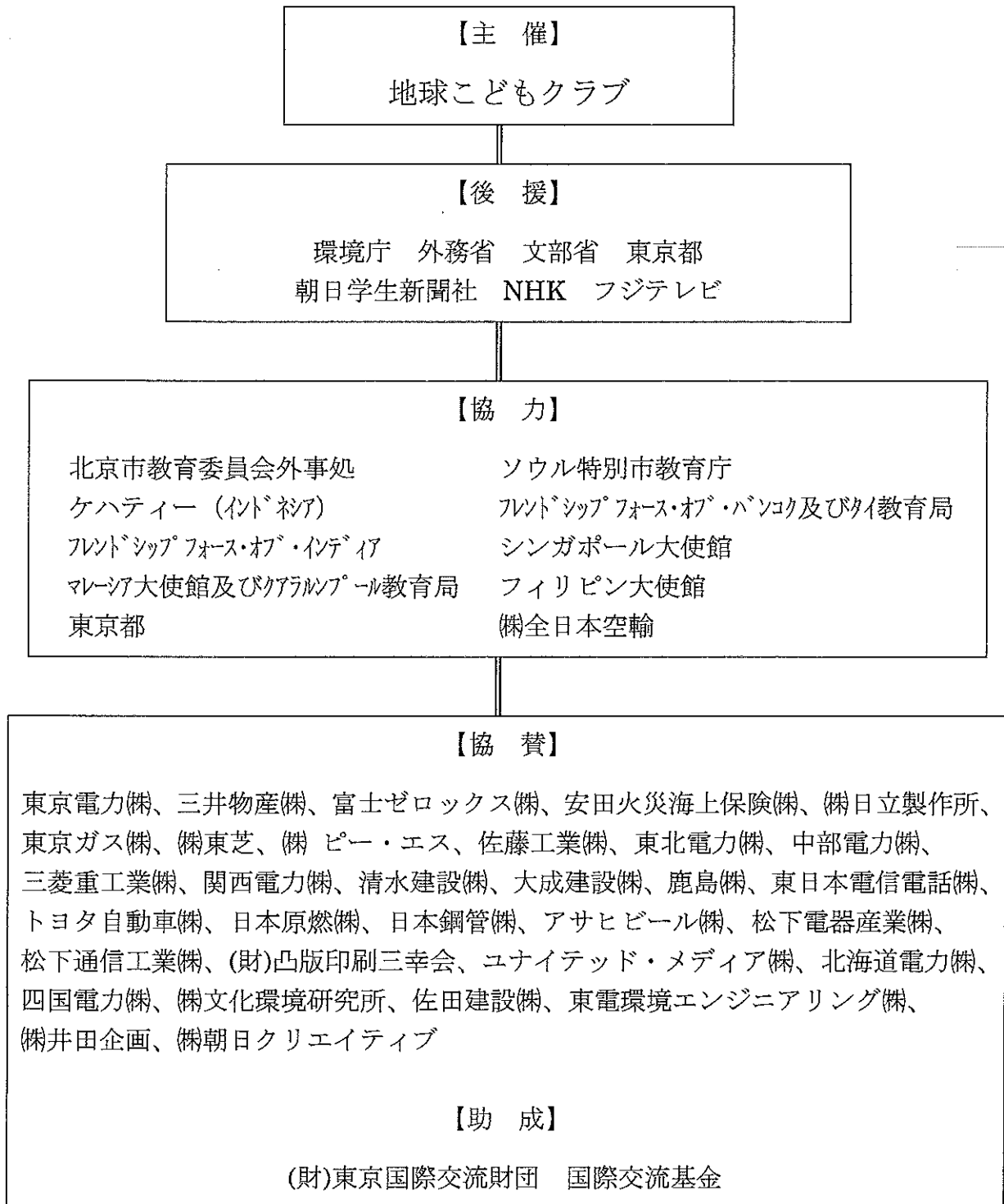
報 告 書

期間： 2000年1月5日～2000年8月31日

地球こどもクラブ

「ぼくたちの地球を守ろう」作文・ポスターコンクール

運営組織図



「ぼくたちの地球を守ろう」

第10回小・中学生作文コンクール／第4回小・中学生ポスターコンクール

I 募集要項

【募集内容】 「ぼくたちの地球を守ろう」をテーマとした作文及びポスター
“どうしたら美しい地球を守っていくことができるのでしょうか”
日頃の生活の中で体験したこと、考えたこと、実行していることなどを作文やポスター
にしてまとめたもの。
題名は自由

【応募規定】 《作文》 400字詰め原稿用紙3枚以内。
作品書き出し1行目に題名2行目に氏名・学校名・学年（新学年）を記入。
別紙に氏名・住所・郵便番号・電話番号・学校名・学年（新学年）・性別・
生年月日を明記。

《ポスター》 画用紙（54cm×38cm）を使用。
裏面に題名・氏名・住所・電話番号・学校名・学年（新学年）・性別・
生年月日を明記。

【応募資格】 2000年4月1日現在 小学4年生から中学3年生まで

【賞】 《作文》 高 円 官 賞 小・中学生 各1名
環境庁長官賞 小・中学生 各1名
優 秀 賞 小・中学生 各1名
地球子どもクラブ賞 小・中学生 各1名
特 別 賞 若干名

《ポスター》 高 円 官 賞 小・中学生 各1名
環境庁長官賞 小・中学生 各1名
優 秀 賞 小・中学生 各1名
特 別 賞 若干名

【審査基準】 環境に対する純粋で素直な表現力と、こどもらしい視点を競う

【審査委員】 江 森 陽 弘 (ジャーナリスト／元朝日新聞編集委員)
長 沢 光 男 (環境ジャーナリスト／元朝日新聞編集委員)
山 谷 え り 子 (サンケイリビング新聞編集長)
弥 永 理 絵 (環境庁企画調整局)
森 ミ ド リ (音 楽 家)
アグネス・チャン (歌 手)
浅 井 清 恵 (中学校教諭)
岡 崎 友 紀 (女 優)

【締め切り】 日本語作品 2000年4月10日消印有効
外国語作品 2000年3月31日必着

【応募先】 〒107-0052 東京都港区赤坂7-10-9 赤坂伊藤ビル6階
地球子どもクラブ コンクール係
TEL03(3586)2741 FAX03(3586)6293

【発表】 5月中旬 入賞者に事務局より直接通知

【後援】 環境庁 外務省 文部省 東京都 朝日学生新聞社 NHK フジテレビ

【参加国】 日本・(海外日本人学校を含む)・中国・韓国・インドネシア・タイ・インド・
シンガポール・マレーシア・フィリピン

II 応募状況

【本年度応募状況】

国名	作文部門	ポスター部門	合計
日本	1,797	651	2,448
韓国	103	106	209
中国	99	0	99
インド	84	18	102
インドネシア	22	22	44
シンガポール	207	92	299
マレーシア	257	271	528
フィリピン	38	16	54
タイ	67	205	272
海外小計	877	730	1,607
合計	2,674	1,381	4,055

【過去の応募】

	応募総数 (単位:作品)	作文			ポスター		
		国内	海外	合計	国内	海外	合計
第1回 (1991年)	3,320	3,320	-	3,320	-	-	-
第2回 (1992年)	3,571	3,571	-	3,571	-	-	-
第3回 (1993年)	3,733	3,733	-	3,733	-	-	-
第4回 (1994年)	3,782	3,684	98	3,782	-	-	-
第5回 (1995年)	3,920	3,717	203	3,920	-	-	-
第6回 (1996年)	4,156	3,873	283	4,156	-	-	-
第7回 (1997年)	4,914	4,117	272	4,389	525	-	525
第8回 (1998年)	5,678	4,106	404	4,510	1,168	-	1,168
第9回 (1999年)	6,350	3,910	721	4,631	1,296	423	1,719
第10回 (2000年)	4,055	1,797	877	2,674	651	730	1,381
計	43,479	35,828	2,858	38,686	3,640	1,153	4,793

※1997年よりポスター部門を新設

Ⅲ 授賞式（作文・ポスターコンクール）

【日 時】 2000年7月27日（木） 13：30～15：00

【会 場】 如水会館（東京都・一ツ橋）

【出席者】 高円宮殿下 [コンクール名誉総裁]
 高円宮妃殿下
 川口 順子 環境庁長官
 岡田 康彦 環境庁事務次官
 太田 義武 環境庁企画調整局長
 松村 隆 環境庁環境保全活動推進室長

石井 吉徳 地球子どもクラブ会長／富山国際大学 教授
 井田 敏夫 // 専務理事／株式会社井田企画 社長
 田中 豊蔵 // 理 事／元朝日新聞論説 主幹
 江森 陽弘 // 理事 審査委員長／元朝日新聞編集委員
 長沢 光男 // 理事 審査委員／環境ジャーナリスト
 森 ミドリ // // // /音楽家
 岡崎 友紀 // // // /女 優
 弥永 理絵 // 審査委員／環境庁環境保全活動推進室
 飛鳥 童 ポスターコンクール審査委員長／画 家

藤田 彰 佐藤工業株式会社（理事代理）
 高橋 利幸 佐田建設株式会社
 岡部 修二 トヨタ自動車株式会社
 安村 朝昭 松下電器産業株式会社
 北條 賢吾 松下通信工業株式会社
 岡田 太一 大成建設株式会社
 内山 順子 エイテック・メディア株式会社
 中村 浩子 //
 細谷 義隆 トライボット・プランニング株式会社
 樋口 博夫 //
 南埜 良平 //
 橋本 知洋 //
 中川 聡 トライボット・デザイン株式会社
 廣瀬 小夜子 ビーラックスオアシス株式会社
 黒河内 孝一 学校法人 野方学院
 郭 志豪 シンガポール大使館 一等書記官
 ルーテス G・ソリマン・タバモ フィリピン共和国大使館 副領事

国内入賞者	6名	海外引率者	8名
海外入賞者	15名	通訳者	8名
入賞者家族	25名		
マスコミ関係者	2名	朝日小学生新聞・TBS ラジオ	

Ⅲ 入賞者一覧

【作文部門】

高 円 宮 賞	小学生部門 『友達にプレゼントしたら……』	やまだ しんや
	大阪市立鷹谷小学校 5年	山田 真也
	中学生部門 『校舎にでっかいハト誕生』	やまだ けいすけ
	大阪市立中野中学校 2年	山田 圭祐
環境庁長官賞	小学生部門 『動物たちへしてやれること』	こめすき やなお
	沖縄県名護市立東江小学校 5年	米須 清直
	中学生部門 『私たちの地球』	たなべ あかり
	愛知県岡崎市立美川中学校 3年	田辺 あかり
優 秀 賞	小学生部門 『ぼくが地球に出来る事』	むらかみとしひろ
	宮崎県小林市立小林小学校 4年	村上 巖寛
	中学生部門 『私のこの手から』	あがり ゆうこ
	富山県魚津市立東部中学校 2年	上里 祐子
地球子どもクラブ賞	小学生部門 『最愛の地球を私達の手で守るために』	のじま あゆ
	京都府綾部市立綾部小学校 5年	野島 亜悠
	中学生部門 『地球を守ろう』	リー・スーヨウ
	北京第二実験小学校 6年 (中国)	李 思遙
特 別 賞	中国 『地球の保護を、私から』	テン・フエイ
	北京文匯中学校 1年	田 飛
	インドネシア 『地球上の汚染』	ラニー・カリア
	アングカ第九小学校 6年	
	インド 『地球を救うにはまだ間に合う』	ニラシ・レイ
	ラグビー・シ・ジュニア・モダン小学校 5年	
	インド 『地球を守ろう』	ニディ・バーチア
	アミー・パブリック中学校 3年	
	シンガポール 『環境を守ろう』	フ・ジュエイ・ジヤスミン
ナンヤン女子中学校 2年		
フィリピン 『地球を救うため、今立ち上がろう』	プリンセス・ベルデテ・マンガン	
ホリー・スピリット小学校 5年		
フィリピン 『地球を苦しめることをやめ、地球を救おう』	マリア・エスメラルダ・ジーソン・チュア	
バヤニハン中学校 2年		

【ポスター部門】

高 岡 宮 賞	小学生部門 『美しい山河・美しい微笑み』 ミョンドン初等学校 5年	チェ・ウンジュ (韓国)
	中学生部門 『地球を守ろう』 キーツ・ワ第2中学校 2年	パング・キー・ウオイ (マレーシア)
環境庁長官賞	小学生部門 『地球を守ろう』 テマセク小学校 5年	ロウ・シユ (シンガポール)
	中学生部門 『私の地球を壊さないで』 カニシウス中学校 2年	リョン・リカト (インドネシア)
優 秀 賞	小学生部門 『地球を守ろう』 ワットクワトリスアプラー小学校 4年	ソングラット・パタックキナン (タイ)
	中学生部門 『一滴の水も大切に…』 ウォンチョン中学校 3年	イ・ギョソク (韓国)
特 別 賞	マレーシア 『地球を守ろう』 クオ・ミン・セムハン小学校 4年	ヨング・カング・ニング
	タイ 『環境破壊のない村』 パークチョン中学校 3年	ジンタナカーン・マニーラット

IV コメント

【応募数】

本年も昨年同様、告知用ポスター（1500部）を全国都道府県の各小・中学校、県教育委員会、各市環境局、図書館、PTA関係、マスコミ各社に郵送し、広く募集をかけました。しかし、当初沖縄サミットのプレイベントとしての開催を試みていた関係で例年より応募期間を短くしたため、昨年と比べ国内からの応募数がほぼ半数に減少しました。一方、海外についてはフィリピンを募集国に加え合計8ヶ国の各協力機関を通し募集をかけたところ、作文・ポスターとも昨年を大幅に上回る応募がありました。

【作品内容】

環境問題に対する取り組みがより周知されてきた証しか、自分の身近な問題や実際に取り組んでいる具体的な対策などについて書かれた作文が多く見られました。またグローバルな視点で自国で問題となっている環境破壊について述べる作品もあり、いかに子供たちに対する環境教育が世界的に広まっているかが察せられます。しかし、応募者が海外の場合は上流階級者が多く、国内では地域に偏りが見られるなど、環境保護運動の浸透性がまだスポット的であることも見うけられました。

本年度のポスター部門の受賞作品は全て海外からの応募作品となりましたが、審査委員長を務めた画家の飛鳥童先生も感心するほど、大人顔負けの表現力や発想をもった作品ばかりでした。その色使いや構図の大胆さ、テーマの切実性などといった創造性は今回の国内作品にはあまり見られませんでした。

【授賞式】

皇太后ご崩御のため出席が危ぶまれましたが、今年も高岡宮殿下、妃殿下ともにご臨席賜り、川口順子環境庁長官にも出席いただき、各受賞者に賞状、メダル、記念品をお手渡し頂きました。各国の民族衣装をまとった華やかな子供たちの笑顔に満ち、和やかな雰囲気の中、式は滞りなく進みました。

第7回アジアこども会議

【日 時】 2000年7月27日（木） 15：00～17：15

【会 場】 如水会館（東京都・一ツ橋）

【来 賓】 高円宮両殿下

岡田 康彦 環境庁事務次官
太田 義武 環境庁企画調整局長
松村 隆 環境庁環境保全活動推進室長

石井 吉徳 地球こどもクラブ会長
井田 敏夫 // 専務理事
田中 豊蔵 // 理 事
江森 陽弘 // 理事 審査委員長
長沢 光男 // 理事 審査委員
森 ミドリ // //
弥永 理絵 // 審査委員

藤田 彰 佐藤工業株式会社（理事代理）
高橋 利幸 佐田建設株式会社
岡部 修二 トヨタ自動車株式会社
安村 朝昭 松下電器産業株式会社
北條 賢吾 松下通信工業株式会社
岡田 太一 大成建設株式会社
内山 順子 エイテック・メディア株式会社
中村 浩子 //
細谷 義隆 トライボット・プランニング株式会社
樋口 博夫 //
南埜 良平 //
橋本 知洋 //
中川 聰 トライボット・デザイン株式会社
廣瀬 小夜子 ビーラックスオアシス株式会社
黒河内 孝一 学校法人 野方学院
ルアース G・ソリマン・タハモ フィリピン共和国大使館 副領事

【出席者】 コンクール入賞者 21名
通訳者 8名

【参加者】 入賞者家族
マスコミ関係者

【総合司会】 小林 恵理

【進 行】 三好 佐知 [東京都環境局 総務部企画課主任（地球企画担当）]

【内 容】

■テーマ 「身近なところから環境問題を考えよう」

午後3時15分参加者全員が着席し、高円宮殿下・妃殿下のご入場後、司会者より開会の宣言「この会議は国や地域の問題、学校や家庭単位の地域性の違いを認識し、考え・発言をしていただく場である」ことの説明があった。その後、主催者代表より挨拶を頂き、アジアこども会議は開会した。

①まず進行役の三好佐知さんより、自己紹介と自分の働いている部署の仕事内容の説明があり、その後環境問題をわかりやすくまとめている東京都製作の『地球は今』というビデオを通して、代表的な9つの環境問題について勉強した。

②三好さんより「自分が住んでいる地域や国では、どんな環境の問題があるのか」との問いに、参加国の子供たちに意見を発表してもらった。

<中 国> 車の排出ガスが基準以上に排出され大気汚染が進み、特に北京ではすでに青い空が見えなくなってきている現状、工場の廃水も基準以上に直接海に排出され、海の動物たちが死亡していること、また北京周囲の地方では田植えのために木の大量伐採により砂漠化が進み、北京市が今年9日間連続して砂雲におおわれたことなどが発表された。

<韓 国> 1980年代以降急激に発展した工業化及び都市化の問題により、産業廃棄物の発生がこの5年間で4～5倍に増え、韓国の4大河川の汚染もかなり深刻であること、また農薬の使用量が過去20年間で4倍以上に増え、土壌汚染の深刻さも発表された。

<フィリピン> 米軍基地に残された化学廃棄物の問題と工場から排出される化学薬品廃棄物について、処分方法を考える必要があるとの発表があった。

その他、ゴミ問題で特に分別、プラスチック・ポリ袋の使用、森林伐採による地球温暖化の問題、オゾン層破壊による紫外線警報や、酸性雨の問題が各国より発表された。

③②の発表をふまえ、「この環境汚染を減らすためにそれぞれの国や自分自身で取り組んでいることはあるか」の問いに、子供たちより意見を求めた。

a) 環境を守るためには、使用することを減らす(リデュース)、何度も繰り返し使用する(リユース)、リサイクルに廻す(リサイクル)の3つのRが必要である。シンガポールでは毎年4月21日の「地球の日」に学校でリサイクル用の新聞を集めるコンテストを行っていて、昨年国全体で何百トンもの新聞が集まった。

b) タイのカオヤ国立自然公園主催の環境保護キャンプに参加した。これは子供たちに環境保護を意識させるためのキャンプで、7歳位から約50名が参加した。こういった、全ての子供たちに対するキャンペーンが必要。

c) 中国では、環境保護のために多くの措置を作り出した。野生の動物公園、住民を動員しての植林、車の排気管への浄化器の取付、工場の排水制限、工場熱源を石炭からLPガスへ転換等。

d) マレーシアでは、家族が木を1本植えることを政府が要望。また環境保護啓蒙のために15分間のアニメをキャンペーンとして毎日放送している。

e) 自動車の排気ガスを削減するために、個人乗用者は利用せず公共車や電車、自転車を利用。

f) ゴミは各家庭でしっかり分別して捨てる。

④「地球を守るために、今起こっている環境問題をどうしたら良いと思いますか」の問いには次の発表があった。

- a) 子供も大人も地球環境と共に歩むことが必要である。
- b) 自ら自覚して行動することが必要である。
- c) 自分たちの地球を守るために、子供でも環境保護を担う責任があることを教える。
- d) 少しずつでも良いからお互いの協力が必要である。
- e) 一人ひとりが考え、何をすれば地球環境に良いかの行動力が必要である。

など、昨年に引き続き大変すばらしい意見が交わされた。

⑤上記のアジア9カ国の子供たちの意見を、「私から始めよう！元気な地球をとりもどすため、大人もちゃんとじかくをもって協力しましょう」を『こどもアジェンダ21』として宣言書にまとめ、岡田康彦環境庁事務次官（長官代理）に各国代表の子供たちから手渡され、アジアこども会議を閉会した。

コメント

【事業の成果】

地球環境をいかに守るかは、我々一人ひとりの認識の問題です。

この第7回アジアこども会議に参加した子供たちの認識の高さ、及び発表の内容から判断される知識のレベルの高さは、高円宮両殿下をはじめ、出席した大人たちにとっても大変勉強になり、21世紀の地球環境保全を担うためにふさわしい人間育成に大いに役立つ会議であることを改めて認識しました。

また、この会議に参加した9カ国の子供たちにとっても、他の国の環境問題の状況の違い、及びそれぞれの環境問題の認識の違いなどがわかり、各人に今後どうすれば良いかを考えさせる場を与えることができたと思います。

子供たちがこの会議に参加して得た認識、及び知識を、それぞれの国・地域に持ちかえり啓蒙活動の輪を大いに広げていくものと期待するとともに、さらに、日常生活ではなかなかできない高円宮殿下・妃殿下及び環境庁長官との交流、そして他国の子供たちとの国際交流の体験は、地球環境問題に留まらず今後大いに役立つことを願います。

【自己評価】

東京都環境局三好さんのご協力により、子供たちに変わりやすいレクチャーをいただき、彼らから上手に意見を引き出し、会議を成功裡に導くことができました。ただ、海外の子供たちの発表内容・態度などを見比べ、日本の子供たちには発言力の弱さがまだまだ見られ、今後は国内の子供たちの発言力強化に一考していきたいと反省しました。

【フォローアップの方法】

今後は参加してくれた子供たちとの交流、及びフォローアップ体制を強化するために、9月より開設したインターネットによる環境教育の発信に力を入れるなど、子供たちへの広報活動を強化していく考えです。

懇 親 会

【日 時】 2000年7月27日（木） 18：00～19：00

【会 場】 如水会館（東京都・一ツ橋）

【作品発表】 作文部門 高円宮賞
小学生部門『友達にプレゼントしたら……』 やまだしんや 山田 真也
中学生部門『校舎にでっかいハト誕生』 やまだけいすけ 山田 圭祐

挨拶は地球こどもクラブの理事で審査委員の森ミドリさんからいただきました。その後、作文コンクール高円宮賞受賞者の山田真也君、圭祐君ご兄弟に代表して各受賞作を朗読してもらいました。会場内にはポスターコンクールの受賞作品及び入賞作品が展示され、出席者の目を喜ばせていました。

子どもたちや海外からの引率者は、国境や言語の違いを越えた交流にいそしみ、共に写真を撮り合いアドレスを交換する姿がちらほら見られました。海外の子どもたちはこういった場に慣れているのか、国からの小さなお土産をたくさんかかえ、友達になった他国の子どもたちに配り歩いては、通訳を通して挨拶を交わしていました。ここで築かれた新しい交流が今後さらに大きな輪となっていくことを期待します。

都内観光・環境視察ツアー

【日 時】 2000年7月26日（水） 9：00～17：00

【見学場所】 東京都葛西臨海水族館
東京電力横浜火力発電所

【参加者】 海外入賞者 15名 通訳者 8名
国内入賞者 6名 海外引率者・家族 10名
三好 佐知（東京都環境局）

午前中は海外からの参加者、通訳者、引率者を東京観光として葛西臨海水族館に連れていきました。あいにく天候は雨で、バスから見る都内の景色は灰色がかっていました。運悪く交通渋滞により、館内での自由見学は1時間弱という短い時間でしたが、東京都随一の大水槽の中を食入のように見つめ、撮影し合う姿なども見られました。

午後は国内入賞者とアジアこども会議進行役の三好佐知さんが合流し、横浜火力発電所に向かいました。ここでは、まず展示館のトゥイニー・ヨコハマ館長から火力発電所ではどういった仕組みでエネルギーを作り出しているかを模型により説明いただき、その後「もし電気がなくなったら・・・」というテーマで製作されたビデオを見ました。普段何気なく使っている電気に対する問題意識を、子供たちに的確に訴えることができたのではないのでしょうか。

その後、火力発電所内のガスタービンフロアや中央操作室などを見学し、最新式のコンパインドサイクル発電の仕組みについて説明を受けました。海外からの引率の大人たちからは特に興味をひいたようで、専門的な応答が案内役の館長や副館長との間を飛び交い、通訳の方が困る場面も見られました。また、発電所で使用される水の多さに「日本はこんなにたくさんの水を持っているのに、なぜ水をさらに輸入するのか」といったシビアな質問がかけられるなど、考えさせる機会もたびたびありました。